

2020年2月16日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「見分けること、聞き分けること」

聖書：ヨハネ福音書9:35～10:6

「イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった」(35節)。「彼」とは、9章1節から出て来る生まれつき目の見えない障害を持つ盲人のこと。彼に対し弟子たちは、「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」この弟子たちの問いは、人々が普通にそう考えていたことである。イエスは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と答えた。この言葉は慰めに満ち、愛にあふれた言葉である。この「神の業」とは、この後に癒しの業が成されて行くことを示しているが、しかし、本当の「神の業」とは、こういう癒しのことに重点が置かれる事よりも、彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずく(38節)ことにある。「神の業」とは、イエス・キリストに出会い「主よ、信じます」と言って、ひざまずくことへ導かれることではないだろうか。

ここでのメッセージは、イエスにお会いする、キリストを見るということにある。肉体の癒しという事とに、余り囚われてはいけない。キリストにお会いしているのに、キリストを見ることの出来ない不幸を表している。肉体の目が、たとえ生まれつき不自由ではあっても、キリストを見ることが出来ることの幸いを語っている。ただ私たちは、肉体の癒しを願うものである。癒されたらどんなに嬉しいことか。しかし私たちには、そのような癒しの力はない。キリストでなければそのような業は出来ない。この世で生きる事は様々な苦勞は伴うが、しかし、キリストにお会いする、キリストを見ることが出来る幸いを、私たちにもくださっている事を覚え、日々共にいてくださるお方と歩ませて頂こう。

最後に、10章1～6節。ここは、イエスは羊飼いに例えられ、羊は羊飼いの声を聞き分けることが出来るという。ほかの者には決してついて行かないという。では、私たちはイエスの声を聞き分けられているのか？イエス以外の声に惑わされてはいないか？ 私たちも羊のようにイエスをしっかり見、イエスの御声を良く聞き、「見分けること、聞き分けること」を覚えたい。(神谷)